

ご挨拶

福岡市東区医師会会長 辻 裕二

東区医師会は設立以来 35 年余、「東区の患者さんは東区で」を合言葉に地域医療を充実させることを目標に活動を続けてまいりましたが、これは「地域完結型医療システム」として全国に広がりその発祥の地とされています。

しかしながら、三師会（医師会、歯科医師会、薬剤師会）や福岡市医師会立訪問看護ステーション以外との多職種連携をシステムとして構築するまでには至っていませんでした。ただ、本地区では伊藤先生をはじめとする数人の多職種の皆さんを中心に在宅医療およびケアを「地域完結型」にシステム構築しようとの運動が始まり、現在福岡東在宅ネットワークとしてその活動は目を見張る拡がりを見せておりますが、東区医師会は当初よりその運動を支援させていただく形で在宅医療を推し進めてきました。

平成 24 年度からは本格的に「多職種連携による地域包括ケアシステム構築」が始まり、まずは福岡市医師会として積極的に取り組んでこられていましたが、平成 25 年度に地域医療再生基金を用いて地区医師会が事業主体として取り組むこととなり、法人格を持たない一区医師会としてどこまでできるのか戸惑いも多くありましたが、東区医師会が福岡市型地域包括ケアシステム構築のモデル地区にも指定されたこともあり、主に東保健所、福岡東在宅ケアネットワークと合同で両事業を同時進行で進めているところです。

超高齢化は今後都市部で急速に進みます。病院や入所施設は一見沢山あるようにも見えますが、ここ数年のうちに現状のそれでは到底まかなえない想像を超える超高齢社会は間違いなくやっけてまいります。その時は医療や介護の現場は自宅がその首座にならざるを得ません。また、今でも十分な医療や介護が受けられずに、自宅で孤独死される方は年々増加しており、東警察署管内だけでも検案事例が年間 300 人を超えております。

このような中、医療側も在宅医療への取り組みを積極的に進めてはおりますが、在宅主治医を務めることができる医師はかなり不足しており、医療のみで超高齢社会を乗り越えることは不可能です。今後当ネットワークを中心に、医療や介護、そしてそれを支えて下さる多職種の皆さんがスクラムを組んで福岡市東部地区の社会が人にやさしい、そして安心して寿命を全うできる地域になれるよう今後も当ネットワークを全面的に支援させていただきたいと思っております。皆様の一層のご理解とご協力を賜ることをお願いしてご挨拶とさせていただきます。なにとぞよろしくごお願い申し上げます。

（一部福岡県医報より抜粋 平成 26 年 3 月）